宣教の声
The Voice of Mission
海外邦人、欧州諸国、
および迫害下にある聖徒への宣教
2022年 9 月号
No. 480

ヤクーツクの婦人に、子ども聖書と食料品を手渡すパーヴェル伝道師

ミッション・宣教の声 主幹
黒田 禎一郎

本質は何でしょうか

私たちが御子イエス・キリストの名を信じ、
キリストが命じられたとおりに互いに愛し合うこと、
それが神の命令です。
Ⅰヨハネ 3:23

初代教会時代、ローマの五賢帝の一人トラヤヌス皇帝（在位98～117）に、小アジアのプリニウス総督が次のような報告形式の手紙を送りました。

「皇帝！私は部下の数人をクリスチャンに偽装させ、教会へ潜入させました。部下たちは洗礼を受け、クリスチャンと生活をしながら、彼らの一挙手一投足を調べました。報告によれば、クリスチャンたちは昼も夜も集まるたびに、イエス・キリストを賛美しているそうです。また、頻繁にパンを分け合い、ぶどう酒を飲みながら楽しんでいるそうです。それに実に理解しがたいことは、彼らは迫害者のために祈っていることです。皇帝！彼らはローマの役人と皇帝のためにも祈っています。また何よりも明らかなことは、彼らが互いに愛し合っていることです。」スパイたちには、クリスチャンはこのように映ったようです。

イエス・キリストを信じない人たちの目には、クリスチャンが互いに愛し合っている姿は不思議に映りました。世の中は常に自分が中心で、対立関係です。結果、人々はストレスを抱え疲れています。それが神から離れた人間の姿です。初代教会時代、クリスチャンたちが隠れ過ごした「カタコンベ」（地下墓地）の壁には、「私たちは互いに愛し合うことで、御国を経験する」と書かれていたそうです。暗く湿っぽい地下の洞窟で、クリスチャンたちは御国を経験しました。互いに愛し合っていたからです。愛が実践されるとき、そこには主である神がご臨在くださいます。私たちも互いに愛し合うとき、家庭でも教会でも、置かれた所で御国を味わうことができます。

では、クリスチャンの本質は何でしょうか。神学でも奉仕でもありません。神の命令に従順であるかで分かります。「キリストにある信仰」、そして「神と共に歩むこと」は、天の御国に至る2本のレールのようで、目的地は天の御国です。その上に今日も身を置くならば、神の本質である愛が現れてきます。私たちは線路から外れないよう、目を覚まし歩むことが大切です。冒頭のみことばのように、私たちは神の命令に従順に歩みましょう。

コロナ禍の海外邦人宣教21

欧州邦人宣教

ミュンヘン日本語キリスト教会
牧師　井野葉由美

ミュンヘンでの邦人宣教

「海外在住の日本人に福音を届ける」という考えが、まだ日本の教会で知られていなかった頃から、「宣教の声」では、この働きを日本の教会に紹介し続けてくださり、心より感謝しています。そもそも、私自身が留学生の時にドイツで福音を聞き、キリストを信じるに至った、海外日本語宣教の実であり、この働きの重要性を身に染みて感じている者です。

ミュンヘンは、ドイツの中でも日本人によく知られている街で、たくさんの観光客が訪れています。しかし30年位前までは、ドイツの中で日本人が多く住んでいる町は、デュッセルドルフ、次いでハンブルグ、フランクフルトという順序でした。その後、IT産業や自動車関係企業が進出してきて、現在ミュンヘンは、デュッセルドルフに次いで日本人が多く住む町となっており、その数はコロナ禍で減少したとは言え、3,000人とも5,000人とも言われています。

ミュンヘンで、日本語による聖書集会が始まったのは、1980年代後半。一人の信徒の呼びかけにより、元日本宣教師の協力を得て、平日の集会がもたれるようになりました。その後、日本人牧師が2年間ほどおられた時期もありましたが、ドイツの他の都市で、次々と日本語教会が設立されていく中、ミュンヘンは、大都市で日本人が多く住んでいるにもかかわらず、日本語教会が存在していませんでした。そこで、デュッセルドルフ日本語教会に仕えておられた安藤廣之師・里佳子師夫妻が宣教師としてミュンヘンに移ってきて、2011年、それまで続いていた聖書の会を母体として、ミュンヘン日本語教会が設立されたのです。彼らは11年にわたり、教会の土台を築き上げて日本に帰国され、私は2022年1月より、その働きを引き継ぐことになりました。

邦人教会の国際化

これまでのミュンヘン日本語教会の特徴は、駐在のクリスチャン・ファミリーが中心となり、教会を支えていることでした。クリスチャンホームで育った方も多く、日本の教会をよく知っている方々が教会の核となっていましたので、海外日本語教会の中でも、かなり日本的な教会だったのではないかと思います。また、ファミリー全体として集っている家庭がほとんどでしたので、子どもたちの明るい声に

ミュンヘンの街中にあるティアティーナー教会

あふれていました。ところが、2022年に入り、これまで教会を中心的に担っていたファミリーが次々と帰国となり、なんと7月には駐在員家庭はゼロになってしまいました。人の入れ替わりが激しいのは、海外日本語教会の宿命で、「いつも送別会をしている教会」という印象があるくらいです。それでも、誰かが出て行くと、主はまた別の方を送ってくださいます。これだけ人を送り出しているのに、教会はなくならないで存在し続けています。「教会は人のものではない、主のものである」ということを実感できます。また、その時、そこに集う人々の特色により、教会のキャラクターも変化していきます。海外教会では、「教会は生き物である」ということも、また実感です。今回も、神は不思議に新しい方を送り始めておられますが、今までのような駐在員家庭ではなく、ドイツで職を得ている永住者や研究者、国際結婚の方々です。それに伴い、これまで日本語のみの礼拝でしたが、ドイツ人配偶者のために、メッセージをドイツ語に訳して、手渡すことを始めました。また秋からは、定期的に2か国語礼拝も提供していきたいと願っています。それに先駆けて、5月に行われた牧師就任式には、会堂を借りている教会の方々、近隣のインターナショナル・チャーチの方もお招きし、2か国語礼拝をささげました。

ドイツ人にも開かれた教会

ドイツでは、キリスト教は確かに文化としては根付いていますし、人々の心の奥底に、聖書を土台とした考え方があるのも感じますが、イエス・キリストと個人的な生きた交わりを持っているキリスト者は、ほんのわずかです。現在のドイツは、宣教されるべき国となっています。形式的なキリスト教しか知らないドイツ人に、仏教や神道の国の日本人が、キリスト者として生き生きと主イエスを証しすると、大きなインパクトを与えます。この地に日本語教会があるのは、日本人のためだけでなく、ドイツ人のためでもあると私は信じています。神は、今までのミュンヘン日本語教会の土台の上に、ドイツ人にも開かれた教会、地域の教会と協力していく教会という、新たなビジョンを与えてくださっています。日本人の配偶者を通して、ドイツ人が生きたイエスに出会い、ともに礼拝できるようになるとしたら、なんと素晴らしいことでしょうか。（つづく）

5月29日　牧師就任式

伝道、プレゼントにもおすすめです。
聖書の集い・連続メッセージ
「讃美歌詩・聖歌詩の背景から学ぶ信仰」
第1巻〜第9巻 刊行
多くの人たちに親しまれている讃美歌詩・聖歌詩の背景にある作詞者の信仰に焦点をあてる励ましのメッセージ集です。
中綴じB6サイズ ¥500（税別）
ご注文は「ミッション・宣教の声」事務局まで。
その時、わがたましいは歌う
ミッション・宣教の声 主幹 黒田禎一郎

海外伝道シリーズ

旧東ヨーロッパの教会と信者は今

172

ウクライナ共和国

黒田禎一郎

「ミッション・宣教の声」が交流を持つドイツの宣教団体「Friedens Bote」（平和のメッセンジャーの意味）は、2022年2月24日から3か月間に、ウクライナへの救援物資輸送を大型トラックで21回、モルドバへ3回届けました。救援物資は合計311トンとなり、うち約103トンは食料品と488個のマットレスでした。ウクライナの悲惨な状況は現在なお続いていますので、現地の兄弟姉妹を覚えて支援活動を継続しています。次は戦地ウクライナ東部都市ハルキウにいるレオニード伝道師からのレポートです。

煙が上がるハルキウの町

神の救い

都市ハルキウでは、あちこちで家屋が炎上し煙が立ち込めています。住宅にロケット弾が撃ち込まれ、死者が出ています。道路は閉鎖され至るところで兵士の姿が見え、大変危険な状態で進むことは困難です。この現実を前にして、人はいつ命を失うか誰も知りません。私たちは本当に援助を必要としている人々に、救援物資を届けられるよう神の守りと恵みを祈らざるを得ません。一方、この危険の中でも、神は勇敢な聖徒を備えておられます。自分の命が失われるかもしれない状況で、神はご自身の器を用いてくださいます。神は彼らともおられ、死の寸前で救ってくださっています。戦争下では、命と死は隣合わせです。戦火が激しくなればなるほど、それは現実味を増してきます。ロケット弾によって破壊された家屋の中から、まだ命ある人が救出される姿に遭遇するとき深い感動を覚えます。人は戦火で耐えられないような不安と心痛に襲われることがあります。涙を流し生きる意義に疑いを抱くこともあります。

地下鉄駅に避難する人たち

多数の人々が鉄筋コンクリートと強固な金属構造でできている地下鉄駅に避難しています。そこには日光と新鮮な空気が入りません。避難民たちは地下鉄駅ホームにある仮テントで寝起きしています。誰もが太陽の光を浴びたい、新鮮な空気を吸いたいと願いますが、外に出れば「死」が待っているだけです。彼らは地下深くにある地下鉄駅に避難し、命を守るための生活が続いています。ロシア軍によって家屋が焼かれ、着の身着のままで命からがら避難してきた人々の中にクリスチャンもいます。彼らに西側聖徒から贈られた生活必需品を渡し、温かいミルクと信仰書を渡すと、言葉で言い表せないほどに感謝されました。

このように死が目前にある非常事態下で、私たちはキリストの福音を宣べ伝えています。長い話しは不要で、短く、簡潔にイエスがキリスト（救い主）であることを伝えています。私たちには西側聖徒からの救援物資を届ける務めが与えられていますが、キリストの福音を届ける務めも与えられています。なぜなら救援物資は一時的助けですが、魂の救いは永遠の命の贈物となるからです。神はウクライナ地下鉄駅の避難壕の中でも、ご自身の栄光を現されています。どうぞお祈りください。

80日間の地下壕

ハルキウの郊外にあるスタリー・サルトフ村は、保養地として知られている長閑な地です。戦火はその村にもおよび、ある住民は小さな地下室に避難しました。

地下壕で温かいお茶と救援物資を受け取る女性

彼らの家は焼け崩れ、家具、寝室、書斎、台所用品等のすべてを失いました。しかし生きることの方が優先で、彼らは安全と静けさを求めました。彼らはなんと80日間も、地下室で援助の日が来ること待望していました。私たちは彼らの地下室に到着しました。先ず彼らに食料品と生活必需品を渡したところ、涙を浮かべて感謝され受け取ってくれました。彼らはクリスチャンからの贈物を受けとり深く感謝しました。この村には他にも避難している人々（老人、女性、子どもたち）がいました。

そこで私たちは篤い祈りを神に捧げ、彼らを安全な村にまで運ぶ救出作戦を立てました。神は私たちの祈りに応答してくださり、彼らをハルキウから離れた安全な場所に、順番に移動させることができました。しかし途中は、いつ銃撃戦が始まり戦火に巻き込まれるかも知れない不安と緊張感に包まれました。神は彼らを戦火から離れた地へ、無事に導いてくださいました。安全地の教会に到着したとき、彼らの目からは涙が流れ、何度も何度も感謝の言葉を言われました。

ウクライナではこのように聖徒は働いています。ハルキウのバプテスト教会は、戦火の中ですが礼拝を開いています。未信者だけで130人以上が集まっています。どうぞ、続いてお祈りをお願いします。

（つづく）

ハルキウのバプテスト教会

北朝鮮からの叫び 57

神が座るその御座に

北朝鮮でかつて、リバイバルが起こった教会に現在、巨大な金父子の偶像がそびえ立っています。創造主なる神が座すべき御座に、国家の偶像として居座る金三世代は、彼らへの忠誠と崇拝を国民に強要し、唯一真の神なる方、キリストをあがめる者たちを最も憎んでいます。北朝鮮における闘いは、金主体政権という人間組織に対してではなく、もはや光と闇の勢力の霊的戦争と言えるでしょう。

偶像の檻から棄てられた科学者たち

オ・ソジュンの両親は教育者であり、ソジュンを筆頭とする4人の子どもたちは、祖国北朝鮮の未来と繁栄のために高い教育を施され育ちました。彼らは全員理工系を専攻し、特に長男ソジュンは名門大学の生命工学科へ進学しました。彼は大学で新しい科学世界を探求しながら、人類の生命発展に寄与する科学者を志し、優秀な成績で大学を卒業しました。

北朝鮮国民には職業選択の自由は許されず、特に幹部候補となる大学生は、党幹部課から直接配置されることになっていました。ソジュンは金日成の健康と長寿だけを専担した研究所「万寿無窮研究所」に特別配属されました。それは、最高権威者なる金日成への忠誠を第一線で尽くすことのできる、最も栄誉ある職業でした。しかし、彼にとっては過分な栄光よりも、人類への貢献ではなく一個人のためだけに尽力を注ぐ研究しか許されないことに、空虚感と寂しさを覚えるようになりました。ソジュンは偶像という名の檻に閉じ込められた科学者として、一生を捧げるしかありませんでした。

1994年、金日成崩御に伴い、ソジュンたち生命維持研究者全員に暗雲が立ち込めました。その息子、金正日が最高指導者として君臨すると、新総書記の「万寿無窮研究所」は一新され、父金日成に仕えていた研究者たちは、無用の長物でしかありませんでした。彼らは全員、研究所で秘密裡に行われていた全ての行為を一切口外しないと誓約書を書かされ、そこには科学者の良心やその倫理観もありませんでした。彼らは科学者としての誇りもその道も奪われ、全員口封じのために平壌から地方へと追い出され、ソジュンも母親と共に白頭山近くの北の地へと追いやられました。

握りしめた母の言葉

ただ憂鬱さと喪失感に陥っていたソジュンに、韓国教会と連携していたキリスト者の知人が外の世界を教えてくれ、また、密かに購入したラジオの声で心の渇きと慰めを得るようになりました。虚しかった人生に夢と目標ができ、彼は脱北を決意し、母もそんな息子を応援していました。ソジュンがいよいよ故郷を離れるその日、息子のために飯をよそいながら、チョゴリの紐でそっと涙を拭っていた母の姿がありました。彼は母に頭を下げ、必ず迎えに来ると母に約束をしましたが、これが母との最期の別れになるとは思ってもみませんでした。

ソジュンはそのキリスト者の知人の助けを借りて、中国に到着しました。ラジオで福音を聴いていたソジュンは、中国でイエス・キリストを救い主として迎え、神の助けで大韓民国に到着しました。彼は密かに母と弟と連絡を取り合い、二人にもイエス・キリストの愛と恵みを伝えました。そして、母と弟を共に脱北させようとしましたが、保衛部は金日成の研究員だったソジュンの身辺に対して、以前から目を光らせていました。ソジュンを逃がしてしまった失態で、彼の家族に対して更なる監視を強めた公安は、中国まで逃げ延びた母と弟を執拗に追いかけ、とうとう二人は逮捕され、強制送還となりました。母は監獄で過酷な尋問と拷問を受け、獄死し、その遺体さえも残された家族に引き渡されませんでした。

「愛しいソジュン、あなたは自由な場所で思う存分に研究しなさい。そして、科学者としての良心を守り、豊かに暮らすのよ。」―中国の監獄で母が残した最期の言葉でした。母は我が身を犠牲にして、最後まで息子への愛を貫き通しました。弟は政治犯収容所へ送られ、末妹の消息も未だに途絶えたままでした。自分のために最愛の母や弟、妹が犠牲となり、我が身を責め続け、悶え苦しみました。この苦悶の中にあっても、彼は母のその最期の言葉を握りしめ、大韓民国で神と共に前だけを見続けました。

勝利者

幸いにも、もう一人の妹は北朝鮮を出て、中国の教会でイエス様と出会い、そこに派遣されていた北朝鮮人宣教師と結婚し、韓国で二児の母となりました。妹夫婦は脱北民教会を開拓し、神と人々に仕えながら、北朝鮮宣教に尽力を注ぐ器となりました。ソジュンは韓国のグローバル企業に就職し、幹細胞研究員となりました。母の言葉通り、科学者としての良心とその信念を貫きながら、人類の生命発展に捧げる研究ができ、自分が望んでいた真の科学者として再生することができました。その傍ら、北朝鮮の学友たちと共に北朝鮮人権団体を設立し、韓国や全世界に向けて北朝鮮政権の闇を発信しています。最愛の母や弟、妹のことを思うとき、心の痛みでむせび泣くことがあっても、彼は神に呼ばれた意図を知り、祈りを持って闘い続けています。

北朝鮮という国で繰り広げられている霊的戦争と、悪しき力や暗闇が優勢であったとしても、また、オ・ソジュンのように人生に計り知れないほどの痛みがあったとしても、私たちには全ての勝利者なる主イエス・キリストがおられます。主イエスの十字架の勝利は、人々の目には負けたかのように映っても、最終的には圧倒的な逆転勝利でした。いつの日か、この世の全ての悪の力が敗北し、暗闇が打ち破られ、私たちの王なるイエス・キリストが然るべき御座に座られるその日は、私たちも全ての闘いに打ち勝った勝利者となる日です。

「勝利を得る者を、わたしとともに
わたしの座に着かせよう。」
（ヨハネの黙示録3:21）

（名前は仮名です）（次号につづく）

北朝鮮の偉大な指導者たち

国　連

国連世界食糧計画は世界の飢餓状態を発表しました。それによれば、2021年世界で飢餓状態に置かれた人は約8億2,800万人でした。それは前年に比べて約4,600万人多い数字です。その前年度（2019年）に比べれば、約1億5千万人も多くなっています。国連世界食糧計画は、その理由としてコロナ感染の拡大、ウクライナ戦争、それに異常気候による収穫高の減少等を上げています。カトリック教救援団体「マルタ救援サービス」は、このための支援献金を訴えています。一方、プロテスタント救援団体「ブレッド・フォア・ザ・ワールド」（ダグマー・プリィン会長）も、6月末にドイツ・ベルリンで会議を開き、世界的レベルで起こっている食料不足へ支援を呼びかけています。お祈りください。

世界聖書協会連盟

同協会（本部：英国オックスフォード）は、「昨年の聖書発行数は2020年に比べて若干伸びた」と発表しました。旧新両約聖書の発行数は3,260万冊で、前年に比べて5.5%アップしました。発表報告によれば、2020年のコロナ危機による不振の後、需要が増してきたと考えられています。一方、新約聖書のみの発行は減少し、昨年の発行部数は510万冊（前年は570万冊）でした。その他の部分的聖書は1億3,200万冊で、前年に比べ2,300万冊減少しました。お祈りください。

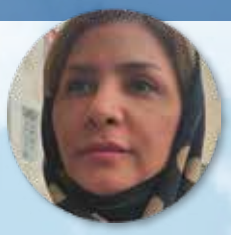
エジプト

チャプレンのサフワト牧師と家族

ドイツ・ヴィースバーデンで開催されたEMO（ミドル・イースト福音同盟）総会で、エジプトのキリスト教病院からの報告がありました。病院チャプレンのミナ・サフワト牧師は、エジプト北部アスアンにある「アル・ゲルマニア病院で、現在起こっていることを次のように報告しました。患者たちは病気の快復と癒しを求め病院に来ますが、院内に設置してある「祈祷ボックス」に祈祷依頼カードを投函するために、100kmも離れた地から来る人もいます。祈祷ボックスに入った祈祷課題は、170人の職員によって必ず祈られると言います。そして幸いなことは、クリスチャンが自分たちのためにも祈ってくれるということが、ムスリム間でも話題となってきたことです。イスラム国で大変良い証しとなっています。同病院は年間約2千人が入院治療を受け、約2万人以上の外来患者が通っています。チャプレンのサフワト牧師は、「院内ではいつもキリスト信仰について語られている」、と証しました。人口約1億200万人のエジプトは90%がムスリムです。キリスト教徒は6～10数%と言われます。西側のある宣教団体は、このような病院伝道に関心と重荷を持ち、できる支援を行なっています。どうぞ、お祈りください。

イ　ラ　ン

人口約8,360万人のイランにおいて、クリスチャンへの規制が増し迫害を受ける聖徒が増加してきました。国際人権委員会（IGFM）のマルチン・レッセティン会長は、現地クリスチャンは危険な状態にあり、逮捕され拷問を受け長期の取り調べを受けようとしていると語っています。ムスリムから改宗したファリバ・ダリア姉妹とザキーネ・ベイヤチ姉妹は、4月に獄中へ送られましたので、とくに覚えてください。2人はキリスト教活動に関与し、国家の安全を脅かしたと言われています。彼らはそれぞれ2年から5年の刑を言い渡されました。最高裁の判決は、彼らがイラン国家に反逆した罪と、シオニスト的キリスト教を広めたと判断しました。IGFMはスイスのCSIや他のキリスト教人権団体ともに、2人の釈放を訴えています。イランにおけるクリスチャン数は1%以下と言われます。どうぞ、お祈りください。


ファリバ・ダリア姉妹

イタリア

6月26日、カトリック教国イタリアの首都ローマにあるプロテスタントのルター派キリスト教会は、創立100年の記念礼拝を祝いました。当日はドイツEKD（ドイツ国教会）理事会議長はじめ関係者が列席しました。ローマ市内にあるこのキリスト教会は、1911年にルドビシ区で建設が始まりました。しかし第一次世界大戦が始まり工事は延期され、完成は1922年となりました。この教会はローマにある唯一のルター派キリスト教会でEKDの管轄にあります。この教会はマルチン・ルターの宗教改革以来、カトリック法王が1983年に初めて訪問した教会としても知られています。その後ヨハネス・パウロ2世、ベネディクト16世（2010年）、フランシスコ法王（2015年）も訪問し説教してきました。

スリランカ

スリランカ（旧称セイロン）はインド南部のインド洋に浮かぶ島国です。この国には、熱帯雨林から乾燥した平原地帯、高地、砂浜のビーチに至るまで多彩な風景が広がっています。5世紀に造られた城塞である宮殿や、フレスコ画があるシーギリヤ遺跡をはじめとした古代の仏教遺跡で有名です。スリランカの古都アヌラーダプラには 2千年以上前の遺跡が数多くあります。ところが、この国は経済危機に直面し、首相が国の「破産」を宣言しました。強烈なインフレに民衆は暴動化し、10万人規模のデモが起き民衆が大統領府を一時占拠し、ゴタバヤ・ラジャパクサ大統領は国外に脱出しました。スリランカは大規模な貧困国で、インフレと燃料不足に見舞われています。インフレ率は6月に54.6%となり、5月以降だけで食品価格は80%、交通機関の料金は128%にも上昇してしまいした。

スリランカ人口の70%は仏教徒ですが、少数のクリスチャンがいます。2009年以来、25年間もつづいた市民戦争で国民は非常に疲れています。祈りと支援が至急求められています。どうぞお祈りください。

祈りを捧げる市民

10時間近くプロパンガスを求める人々

スーダン

国際救援団体「オープン・ドアーズ」(OD)は、スーダンでは最近クリスチャンへの迫害が増してきたと報じています。一時、信仰の自由が少し緩和された時期もありました。ODの迫害度順位リストによれば、スーダンは2020年7位でしたが、2021年には13位でした。しかし2021年10月の軍事クーデター勃発以来、クリスチャンとキリスト教会への圧力は増してきました。現在、すべての教会活動が国家管理下に置かれつつあります。人口約4,500万人の内、4,100万人はムスリムです。クリスチャンは200万人以下で、他は土着宗教信者と不可避論者です。どうぞ、この国のためにお祈り願います。

ド イ ツ

HMK宣教大会

●6月25日、ブレーメンで開かれた宣教大会(HMK主催)で、ハノーファーの福音派教会牧師ヴォルフガン・ネストフォーゲル師は、「キリスト教国と呼ばれたドイツが今崩れつつあり、今こそクリスチャンが立ち上がる時である」とメッセージしました。その前日ドイツ国会は堕胎問題で大きく揺れ、ドイツの倫理面が大きく問われた時でした。今こそドイツ社会全体が聖書に戻らなければ、救いはないと訴えました。暗闇の中にいる多数の人々にキリストの福音を語ることが急務であり、クリスチャンは神から勇気をいただき進もうと力強くメッセージされました。宣教大会では、「カイロのマザー・テレサ」と呼ばれているコプト派クリスチャンのマギー・ゴブラン姉妹(73歳)が証ししました。シスター・マギーは首都の貧しいスラム街に入り、弱者に献身的働きをしています。そのエネルギーはどこから得るのかという問いに、シスターは「上からです。」と静かに答えました。そして、みことばは「心を静め、わたしが神であることを知りなさい」と教えていると証しました。HNK代表のマンフレッド・ミュラー師は、「私たちはドイツのために執り成しの祈りを、そして働きをしなければならない」と訴えました。ハノーファーの国教会(EKD)は、昨年21%もの教会員が脱会しました。どうぞお祈りください。

●ドイツ東部のズヴィカウにあるクリスチャン共同体「ブルネン」は、このほど30周年を迎えました。ここの共同体では、「成長」、「成熟」、「癒し」を求めクリスチャンが共同生活を送っています。2003年から2021年までに、約1万5千人が訪れました。敷地内にある2軒のゲストハウスには、3万4,600泊の宿泊客がありました。

ブルネン共同体のセンター

ブルネンを訪れた人々は生ける神に出会い勇気と励ましを受け、また各種のセミナーにも参加し神の恵みを経験してきました。創立者ハンツ&ドロテア、ゲルトナー夫妻は、当初5人の大人と3人の子どもで「ブルネン」を始めました。30年を機にゲルトナー夫妻は、5人からなる後継者チームにバトンを渡しました。ブルネン共同体の建物はドイツの伝統的建築家屋です。なお経営的には約50%は外からの献金で、残りはブルネンを訪問した人々の自由献金によって支えられてきたとのことです。

レバノン

武装した過激派イスラム教徒を見るならば、キリストの福音に閉鎖的である考えがちですが、レバノンの多数のムスリムはキリストの福音にオープンであると、ドイツの宣教団体「カルメル・ミッション」は語っています。カルメル・ミッション代表のマルチン・ランドメッサー師は、コロナ禍で約3年間働きを中止せざるを得ない状態でしたが、このたび現地教会で開いたイベントには1千人ものムスリムが参加しました。今年はイエスが言われたみことば「わたしは世の光です」(ヨハネ8:12)をモットーに、イスラム宣教が始まっています。ランドメッサー師は、福音の光はイスラム教の暗闇よりはるかに強いと語り、経済的危機が長年つづく中で物的支援が必要と言います。昨年はカルメル・ミッションを通し、4千人以上のムスリムがクリスチャンになり、神のみわざが進んでいると言います。カルメル・ミッションは1904年に創立され、イスラム圏に特化した宣教を行っています。今では世界20か国で200人以上のスタッフが働き、世界でイスラム宣教を推進する貴重な団体です。どうぞ、お祈りください。

レバノンに入ったシリア難民への伝道

ミッション・宣教の声 The Voice of Mission
〒541-0041 大阪市中央区北浜2-3-10 VIP関西センター 5F
TEL06-6226-1334 FAX06-6226-1336
E-mail senkyo@vomj.jp http://vomj.jp/
発行人 黒田禎一郎
年間購読料 ¥2,500(送料込)

郵便振替口座 00940-3-301623
銀行口座 三菱UFJ銀行 堺東支店(店番205)
普通口座 3623132「ミッション宣教の声」
The Voice of Mission
MUFG Bank,Ltd. Sakaihigashi Branch
Bank account No.3623132 SWIFT CODE : BOTKJPJT
Bank Address : 59-2 MIkunigaoka-Miyukidoori,Sakai-ku,
Sakai-shi,Osaka-fu 590-0028 JAPAN TEL:81-72-221-3041

編集後記

■皆様の祈りに支えられ、今月も「宣教の声」をお届けできる幸いに感謝します。今号も世界各地からのニュースをお知らせします。感謝。

■コロナ禍での海外邦人宣教レポートは、今号からドイツ・ミュンヘンに移ります。欧州で活躍中の井野葉由美宣教師の原稿執筆に感謝します。

■ウクライナ情勢は厳しい状態が続いています。アフガニスタン、ミャンマー、スリランカ等の国情勢は混沌とし多数の人々が苦難を強いられています。どうぞ、祈り覚えてください。

1981年12月初版発行(毎月1回1日発行)